

本のような書き言葉だと非常にわかりづらいことがよくわかる。また専門用語も、事象の地平面が、‘事象地平面’となっているなど、ときどきひっかかる。

なお悪いことは、英語と日本語訳が同時にきこえることである。英語が聞えないようにすることもできるのだが、そうすると効果音まで消えてしまい、わけがわからなくなる。訳のわるさとこのことのために、ビデオの価値がだいぶ下がっている。せっかくの良い教材なのに、どうにかならないものだろうか。

このビデオのシリーズはとても高価なので、かならず試聴(無料)してから買うことをおすすめする。全体と

してはよく工夫されていて良い教材だと思うが、ものによっては、ひとが話す場面が長くてたいくつに感じるものもあるし、訳があまりにもひどくて、わけのわからないものもある。ビデオを買うからには、アニメやきれいな映像を駆使してわかりやすくなっているとか、大望遠鏡など、あまりみられない装置がでてくるなどのとりえが欲しい。

カタログ請求先: (株)ジエムコ

Tel. (03) 400-7737 または

(06) 341-3890

(加藤万里子)

## 雑報

### 「天文・天体物理若手夏の学校」報告

第17回天文・天体物理若手夏の学校は、1987年7月23日～27日に長野県北佐久郡立科町の樽ヶ沢山荘にて、宇宙線夏の学校と合同で開催されました。今回の担当は京都大学理学部宇宙物理学教室でした。天文・天体物理から123人、宇宙線から29人の参加がありました。今年も前回から始まった宇宙線との合同分科会を行ない、広い視野に立った意見交換ができました。また、全体企画、各分科会、夜の部とも例年通り盛況のうちに終了しました。プログラムの概要は以下の通りです。

#### ○全体企画

テーマ: スペース・アストロノミー

25日(午後) 第I部. ハッブル・スペース・テレスコープ

概要: 西村史朗氏

天文学に及ぼす影響と日本の研究者の対応:

岡村定矩氏

26日(午後) 第II部. 日本のスペース・アストロノミー

井上 一氏

#### ○合同分科会

24日(午後) 宇宙構造とダークマターII

#### ○分科会

24日(午前) 宇宙構造とダークマターI, 恒星・太陽I

(午後) アクティブな現象I インターステラー, 恒星・太陽II

25日(午前) アクティブな現象II AGN, 観測機器

26日(午前) 高エネルギー, 銀河相互作用

(午後) 天文学と社会

尚, 集録を希望される方は事務局(京大理, 宇宙物理,

太田)までご連絡下さい。

夏の学校を御支援下さった方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

今回は、京都大学理学部物理学第二教室の天体核、宇宙線が担当します。(洞口俊博, 太田耕司)

## お知らせ

### 基研短期研究会「SN 1987A」

大マゼラン星雲で2月23日に出現した超新星 SN 1987A は我々のごく近くで起こった歴史的なものである。特に人類初めての太陽系外からのニュートリノの観測が SN 1987A に対してなされた。更にこれからは光学的な観測だけでなく、ガンマ線, X線そして重力波による観測も期待されている。これらの観測事実は我々に、今まで明らかでなかった多くの理論物理学の未解決な問題に解答を与えてくれる可能性を持っている。それらは

- 1) 星の進化の理論
- 2) 超新星爆発の理論
- 3) パルサーの理論
- 4) 超高密度物質の理論
- 5) 素粒子理論
- 6) 宇宙線の加速の理論

等である。

本研究会の目的は今までの観測事実から何が解ったのか、これから期待される観測から何が解るのかを、明らかにすることである。

世話人: 佐藤勝彦, 高原文郎, 中村卓史, 野本憲一, 福来正孝, 吉村太彦

日時: 11月16日(月)～18日(水)

場所: 京都大学基礎物理学研究所

講演(理論並びに観測)をご希望の方は、10月10日(必着)までに下記の連絡先に御申し込みください。なお旅費の配分については世話人に御任せ下さい。

講演申し込み先

京都市左京区北白川追分町

京都大学理学部物理学第二教室

中村卓史

電話 075-751-2111 (3844)

第20回山田コンファレンス

「Big Bang, Active Galactic Nuclei and Supernovae」

主催: 山田科学振興財団

期日: 1988年3月28日(月)~4月1日(金)

場所: 東京大学山上会館

(〒113 東京都文京区本郷 7-3-1)

内容: 量子宇宙論, インフレーション, 宇宙初期の元素合成, 宇宙背景輻射, 宇宙の大域的構造, 銀河形成, ストリング, 暗黒物質, クエーサー, ジェット, 降着円盤, 活動銀河中心核の観測(電波~X線), 超新星 1987A (ニュートリノ・バースト, X線およびγ線の観測), 超新星の爆発機構, 太陽ニュートリノ, など

海外からの主な参加者:

J. Audouze (Paris), J. N. Bahcall (Princeton)\*, J. E. Gunn (Princeton), W. Hillebrandt (Max Planck), K. I. Kellermann (NRAO), J. P. Ostriker (Princeton), R. B. Partridge (Haverford), M. Schmidt (Pasadena), D. N. Schramm (Chicago), J. Silk (Berkeley), M. J. Rees (Cambridge), Ya. B. Zel'dovich (Moskow)\* ..... \* tentative

参加費: 10,000円

参加予定者数: 約100名

参加登録締切: 1987年10月末日

問い合わせ・申し込み先:

〒113 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学理学部物理学教室

佐藤勝彦(山田コンファレンス)

電話 03-812-2111 内線 4207 または 4191

(前田)

\* \* \* \*

◇ 10月の天文暦 ◇

日	時	記	事
4	10	月	最近
4	19	水星	東方最大離角
7	13	望	
9	5	寒露	(太陽黄径 195°)
15	3	下弦	
16	6	月	最遠
17	6	水星	留
18	24	木星	衝
23	2	朔	
24	8	霜降	(太陽黄径 210°)
28	17	水星	内合
30	2	上弦	
30	12	月	最近

1987年7月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

1	—	—	11	0,	0	21	4,	43	
2	0,	0	12	—,	—	22	6,	46	
3	—,	—	13	0,	0	23	9,	72	
4	0,	0	14	0,	0	24	6,	81	
5	—,	—	15	0,	0	25	5,	94	
6	0,	0	16	1,	3	26	5,	69	
7	1,	2	17	1,	5	27	5,	67	
8	1,	4	18	—,	—	28	6,	67	
9	1,	3	19	—,	—	29	6,	64	
10	1,	5	20	—,	—	30	5,	46	
(相対数月平均値: 35.4)							31	6,	53

◇ 10月の日月惑星運行図 ◇

